

9月11日(水) 朝礼のお話し

379人の命をすくったものは？

今年のお正月に東京の羽田空港で大きな飛行機の事故がありましたね。海上保安庁というところの飛行機とたくさんのお客さんが乗った旅客機が滑走路で衝突し、両方の飛行機とも燃えてしまいました。この事故で海上保安庁の飛行機に乗っていた5人の方が亡くなってしまったのですが、旅客機に乗っていたお客さんとパイロット、キャビンアテンダントさん全部で379人の人が無事に脱出することができました。

379人というのはけやき小学校子どもたちの半分より多い人数です。これだけの人が燃え上がる飛行機の中からわずか18分の間に一人も残すことなく全員が無事に脱出できたこと、これは素晴らしいことで奇跡とも言われました。

さて、今日のお話しは「なぜ燃え上がる飛行機から379人もの人が無事に脱出できたのか？」ということです。

その理由はいくつかあります。まずはパイロットやキャビンアテンダントさんがいざという時のために重ねてきた厳しい訓練が活かされた、ということです。旅客機で働く人たちはお客さんの命を守ることが何よりも大事な仕事で、いろいろな事故がおこった時の訓練を毎年やっています。今回もその訓練の成果がいかされて、キャビンアテンダントさんたちは飛行機が燃え始めているにも関わらず、とてもおちついてお客さんを誘導したそうです。パイロットは全部の座席に残っている人がいないかしっかり確認した後、最後の最後に飛行機から降りてきたそうです。お仕事とは言え、とても立派ですね。

でもパイロットやキャビンアテンダントさんが立派に仕事をしただけでは全員が無事に脱出することはできませんでした。もう一つ、とても大事なことがあります。それは乗っていたお客さんたちもみんな立派だったということです。自分の乗っている飛行機が燃え始めている、このまま機内にいたら確実に焼け死んでしまう、そんな場所にいたらだれでもパニックになってとにかく早く外に出ようとしてしまいますね。でもみんながそんなことをしたらそれこそ大混乱になって助かる命も助からなかったと思います。キャビンアテンダントさんは「おちついて、誘導するまで席を立たないでください。」「荷物は持たないでください。」と声をかけました。乗っていたお客さんたちはこの指示をしっかりと守り、出口に近い人たちから順序良く脱出していきました。それだけではなく、車いすの人や子どもたち、お年寄りが先に外に出られるようにみんなで協力したそうです。すばらしいですね。こんな時に一人でも自分勝手な行動をしたら助からない人が何人もでたかもしれませんね。

事故は起こらないことが一番大切です。でも万が一事故が起こってしまったときにはその場にいる人たちの行動が命の分かれ目になるのだということをお正月の事故は教えてくれたのだと思います。私たちも見習いたいですね。今週は避難訓練もあります。ぜひ真剣に取り組んでください。

今日は379人の命を救った行動についてのお話をしました。今日も最後まで一生懸命聴いてくれてありがとうございました。お話を終わります。